

初めての一人旅

鈴木道夫

初めての一人旅は雨に初まり、くもりで終わ
た。雨を見ながら今車駅で一人寂しくベンチ
に腰かけていると、つい今年の夏、北海道の豊
留駅でこれまた同じようなことをしていた時の
ことが思い出されてくる。旅には雨はつきもの
だ。ほくは白根車駅に置いて、杉並木を日光
ユースへと歩いていった。靴にビニール袋をか
ぶせ、傘をさしていた。両側にそびえ立つ杉
の木にはもう霧々しさは無い。傘を楯にさうし
上を見んと、空を隠した夕の杉の木々の枝から
水が落ちて来る。昔の人は、この杉並木の下を
どういつ気持ちで歩いただろうか。いずれに
も、今はもう突然記念物である杉並木、いつか

死んでゆくだろう。

一人旅のいいところは、このように合々向く
手まにきけることだ。皆に、サイクリングの場
合これがよくあてはまる。二日目と三日目は運
よく雨が上がり、自転車に乘れた。ゆっくりに走
ろうと思えばゆっくりに走れるし、速く走りたく
なれば速く走れる。大勢で合宿などに行つたと
きには、走る楽しみの他に、みんなで食事をし
たり、語り合つたりする楽しみがある。ていも
のだ。しかし走る楽しみを本当にかねてくれ
るのは、やはり一人で走つたときだ。鬼怒川を
谷間に見ながらながう上つていった三日間、五
十里湖から川俣湖に向かうにつれて、しだいに
谷は狭く、紅葉は美しくなつていくように感じ
られた。そのMxが川俣湖の少し手前の箱戸合峽

というところだ。谷は深く、山がそびえ立つ。昔の人の書いた絵に山水図というのがある。だが、それをふと思ひ出した。ここで一人で走る楽しさを書くつもりだったが、実は、この景色を見ていると、この美しさや互いに分かち合おう友が今ここにいたらなあと思ひ、てしまつた。カメラを持つていかなかつたのが残念で仕方がない。実は持つていくカメラもない。

川俣湖から、川俣林道、山王林道を通つて中禅寺湖方面へいくコース、このコースは今回のサイクリングで最高の難関でもあるし、また一番心に残つた。川俣湖と後に川俣林道へと行。

たのは、もう二時半頃だったし、少し疲れもたまつてきた頃だ。た。いきなりくねくねと曲がた上り坂、それもずとザリ道、あ、という

まに三時になつたが、また川俣湖が見えるではないか。甲くは少し焦つた。道路には保護設備がなく、路肩注意とか東詰要心とか書いた立て札が立っている。だんだん家が少なくなり、陽も飛んできた。道行く車の数も急に少なくなつてきた。ふと向こうに見えるのは、くねくねと曲がつたものすごい急坂、あの上は山王峠なのだ。ろうか。ぼくはその急坂の途中で何度か自転車から降り、自分の今よ、く来た道をなぐめ、自分自身を助ました。今思うといい思ひ出だが、あのときは心細かつた。